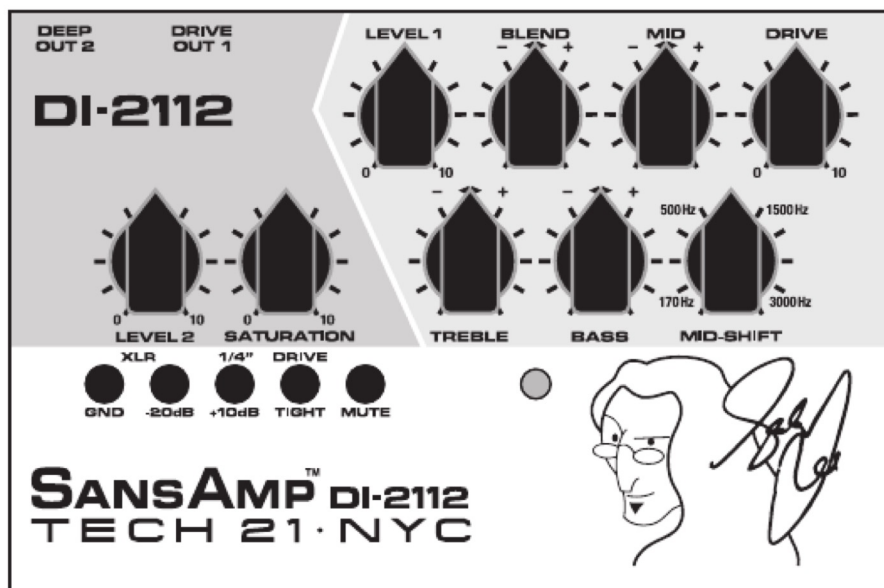


Geddy Lee Signature SansAmp DI-2112

日本語取扱説明書



本書について

本書は、Tech 21「Geddy Lee Signature SansAmp DI-2112 Owner's Manual」の内容を日本語に翻訳し、読みやすい構成に再編集したものです。製品本体のコントロール名・端子名は、実機表記に合わせて英語名を併記しています。サンプルセッティング図は原文の図版を掲載しています。安全のため、接続・取り外しの前にはミキサーをミュートし、アンプの音量を下げてください。

TECH 21 について

Tech 21は、優れた聴覚と電子回路の専門知識を併せ持つギタリストによって設立されました。1989年、B.Andrew Bartaは自身の発明を世界中のプレイヤーやスタジオに向けて製品化しました。高く評価された SansAmp は、レコーディングのダイレクト接続やライブ演奏におけるチューブアンプ・エミュレーションを切り拓き、まったく新しい信号処理のカテゴリーを生み出しました。その後、多くの製品がこの分野に登場しましたが、SansAmp は現在も業界標準として高い評価を維持しています。

Tech 21 独自の 100% アナログ回路は、チューブ・プリアンプをマイキングしたかのような自然な温かみと存在感を楽器に与えます。SansAmp のチューブアンプ・エミュレーション技術により、レコーディング卓や PA システムへ直接接続できるほか、既存のアンプ・セットアップを拡張することもできます。

Tech 21 は SansAmp 各モデルに加え、エフェクトペダル、MIDI 製品、ギター / ベース用のトラディショナルなスタイルのアンプも展開しています。各製品はプレイヤーの立場を重視し、B. Andrew Barta 自身によって慎重に設計されています。サウンドを探求し、組み立て、作り直すための柔軟で多用途なツールを提供し、創造性を刺激して最高の演奏を引き出すことが目標です。

製品概要

Geddy Lee は1996年の「Test for Echo Tour」以降、ステージ上でアンプやスピーカーを使用せず、その代わりに大型家電を並べる演出を好んできました。新しいプロジェクトに向けて機材をよりシンプルにしたいと考えた Geddy は、Tech 21と共同でシグネチャー SansAmp 「GED-2112」を開発しました。ラックいっぱい機材を 1U ラックサイズに凝縮するという、挑戦的な共同開発でした。Geddy は GED-2112 について、「これは長年追求してきたベース・トーンの考え方をそのまま発展させたもの。『深くクリーンなトーン』と、SansAmp RPM で得られる『エッジの効いたクランチ』が、今では1台に収まっている」と述べています。ラックマウント型 GED-2112 では、2系統の独立した内部プリアンプを並列動作させる「Parallel Pre-Amping」という新しい構成が採用されました。そのコンセプトを受け継いだコンパクトな SansAmp YYY ペダルでは、2つの信号経路をブレンドしやすいよう構成が簡略化されています。

SansAmp DI-2112 は、ラックマウント型の設計思想とペダルの可搬性を融合した新たなフォーマットです。スタジオのデスクトップでも、アンプの上でも使いやすい設計になっています。Drive プリアンプ・セクションは、多彩なサウンドメイクが可能な SansAmp RPM をベースにしています。Deep プリアンプ・セクションは、太く厚みのあるトーンを生み出します。Saturation は、低い設定ではクリーン、高い設定では倍音とチューブライクなコンプレッションが増加します。各セクションは単独でも使用でき、ミキサーや2台のアンプへ別々に出力して外部でブレンドすることも可能です。各 Signature SansAmp は、Geddy の核となるサウンドを備えながら、幅広いスタイルに対応する柔軟性を持っています。

使用方法 (APPLICATIONS)

ベースアンプ・リグのプリアンプとして

SansAmp DI-2112の1/4インチ出力を、アンプのパワーアンプ入力（「Effects Return」など。搭載されている場合）へ直接接続します。これにより、アンプ側の音色に影響するプリアンプ・セクションをバイパスできます。

パワーアンプをドライブする

1/4インチ出力またはXLR出力をパワーアンプの対応する入力へ接続し、SansAmp DI-2112のLevelコントロールでステージ音量を調整します。

パワーアンプ入力へ接続する場合の推奨出力設定：1/4インチ使用時は「+10dB」をON（押し込み）。XLR使用時は「-20dB」をOFF（押し出し）。その後、必要に応じてLevelを調整します。

ダイレクト・レコーディング

XLRまたは1/4インチ出力を、ミキサー / レコーダーの入力へ直接接続します。ミキサー / レコーダーの入カトリムを調整し、入力をオーバーロードさせないように注意してください。SansAmp DI-2112 の Level が12時位置より低くてもミキサー入力がオーバーロードする場合は、対応する出力レベル・スイッチで出力を下げます。

- ・ 1/4インチ使用時：「+10dB」をOFF（押し出し）
- ・ XLR使用時：「-20dB」をON（押し込み）

フルレンジ・システムでは広い周波数帯域が再生されるため、まずEQを12時位置から始め、好みに合わせてブースト / カットすることを推奨します。

自由な発想で使う

SansAmp DI-2112 はベース専用とは限りません。チェロ、キーボード、フィドル、ドラム、サックス、ハーモニカ、ボーカルなどでも試すことができます。また、ミックスダウン時のリアンプ処理など、既存トラックに活気を与える用途にも使用できます。

INPUT へ入力する信号レベル

SansAmp DI-2112 の Input は、ギターの出力やディストーション・ペダルの出力など、楽器レベルの信号を想定して設計されています。通常使用では、標準的なベース・ギターと同程度（約-10dB / 250mV）の信号レベルが目安です。

より高いレベルの信号を入力すると、最もクリーンな設定でも Input 段を過度にドライブし、意図しない歪みが発生する場合があります。ただし、高い信号を意図的または誤って入力しても、本機が損傷することはありません。

入出力 (THE INS AND OUTS)

機器の接続 / 取り外し時に不要な「ポップ」ノイズが発生し、スピーカーを損傷する可能性を避けるため、標準的なオーディオ機器の手順に従ってください。

接続・取り外しの前には、必ずミキサーをミュートし、アンプの音量を下げてください。

重要：本機は最初に電源ON、最後に電源OFF。

INPUT

1/4インチ、1MΩ、楽器レベル。プラグの抜き差しでバッテリー電源がON/OFFします。電池の消耗を防ぐため、使用しないときはInputからプラグを抜いてください。

TUNER 1/4" OUT

本機に Input プラグが接続されている間、Level コントロールの位置や Mute スイッチの状態に関係なく、常に影響を受けない一定の信号を出力します。チューナー用だけでなく、透明感のある信号を外部機器へ送るバッファード出力としても使用できます。

LED

SansAmp DI-2112 がアクティブ・モードのときに点灯します。演奏時には出力があることを示すため点滅します。Muteモードでは消灯します。

ユニバーサル出力セクション

SansAmp DI-2112 の出力部は、幅広い用途に対応するよう設計されています。フルレンジ・システム（PA、マルチトラック・レコーダー、パワード・スタジオモニター）と、帯域の限定されたシステム（ギター / ベース用キャビネットを使用するアンプ）を同時に使用できます。

レコーディング時、SansAmpの出力はDIボックスを内蔵しているように機能します。トランスを使用しない設計により、プロ品質の録音機器や信号処理機器との接続に適した高品質・低インピーダンス出力を実現しています。ミキサーへ直接接続し、スピーカーから聴こえるサウンドと同様のキャラクターをアナログ / デジタルの録音メディアへ送ることができます。

SansAmp 回路は、チューブアンプ特有の温かく豊かで自然な倍音と心地よいオーバードライブだけでなく、複数マイクで収録したチューブアンプ・リグの要素を含むスピーカー・エミュレーションも備えています。ライブではPAへ直接出力できるため、アンプの前にマイクを立てる必要がありません。

DRIVE / DEEP 1/4" OUTS

アンバランス、Low-Z出力。各端子はSansAmp DI-2112の対応するセクションの信号を出力します。

- ・ 1/4インチ Level Selector Switch：+10dBブースト。
 - ・ 0dB（押し出し）：ユニティ・ゲイン出力。まずこの位置から始めてください。
 - ・ +10dB（押し込み）：信号を10dBブーストします。
- 本製品の1/4"フォン出力端子については4パターンの機能に分かれており、
- ・ 1.DEEPとDRIVEをそれぞれ独立して出力→両方の端子にそれぞれ接続
 - ・ 2.DEEPとDRIVEをミックスした状態で出力→MIX/DRIVE outのみに接続
 - ・ 3.DEEPのみ出力→DEEP outのみに接続(DRIVE部LEVEL1のみ影響あり)
 - ・ 4.DRIVEのみ出力→MIX/DRIVE outから出力、DEEPジャックにはダミープラグ接続(出力させない)となっております。

※3.DEEPのみ出力、の際にLEVEL1を上げ過ぎますとオーバーロード状態となりますので、DEEP out の出力レベルに影響しない程度に下げいただけますようお願い致します。

※後述の内部MIXモードスイッチが機能するのは4.接続時のみで、通常モードでDEEP/LEVEL2を上げても影響なし、MIXモードでDEEP/LEVEL2を上げると影響あり、となります。また製品の性質上LEVELを下げて完全には下がり切らない為、通常モードの影響なしの場合でも出力は完全に0にはなりません。

DRIVE / DEEP XLR OUTPUTS

バランス、Low-Z出力。各端子はSansAmp DI-2112の対応するセクションの信号を出力します。

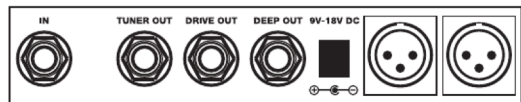
- XLR Level Selector Switch : 機器ごとの入力レベルに合わせるための-20dBパッド。
- 0dB (押し出し) : ラインレベル出力。まずこの位置から始めてください。
- -20dB (押し込み) : ラインレベル信号を20dB下げます。

※製品の特性としてあくまでもDIとしての機能を優先している為XLR outについてはそれぞれのLEVELは完全に0にはならず、それを踏まえた形での接続、および信号を送った先(PAコンソール等)でコントロールしていただく形となります。

Ground Lift Switch

SansAmp DI-2112 の両 XLR 出力と、接地されたミキサー / パワーアンプとの間のグラウンド回路を接続または切り離します。まずはグラウンドをリフトした状態 (押し出し) から始めることを推奨します。必要な場合はスイッチを押し込み、グラウンドを接続してください。各出力 (1/4 インチ / XLR) は個別に使用できます。Drive または Deep のどちらか一方だけを使いたい場合にも対応します。

NOTE: Each output, whether 1/4" or XLR, can be used individually, if, in certain cases, you only want either the Drive or Deep section and not both.



MUTE SWITCH

The Mute function affects all outputs, except the Tuner Out.

MUTE スイッチ

Mute 機能は、Tuner Out を除くすべての出力に作用します。

コントロールガイド

DRIVE セクション

SansAmp DI-2112 の Drive セクションには、一般的なパッシブ・コントロールのようにカットのみを行う方式ではなく、カットとブーストの両方が可能なアクティブ・コントロールが採用されています。これにより調整幅が大きくなり、より多彩なサウンドメイクが可能です。最大の効果を得るために、すべてのコントロールを最大にする必要はありません。各コントロールの相互作用を試しながら、自分のサウンドを作り込んでください。

DRIVE

チューブアンプの出力段を強くドライブしたときのように、全体のゲイン量とオーバードライブ量を調整します。クリーン・サウンド時には入力感度にも作用します。太く力強いクリーンを得るには、歪み始めるまで Drive を上げ、その後、歪みがちょうど消える位置まで少しずつ下げてください。

BASS / TREBLE

アクティブ・トーン・コントロールです。12時位置のユニティ・ゲインを基準に±12dB のカット / ブーストが可能です。Bass は 80Hz、Treble は 3.2kHz です。

MID / MID-SHIFT

Mid Shift は 170Hz ~ 3.0kHz の範囲をスワイプできるパラメトリック EQ コントロールで、Mid コントロールの中心周波数を選択します。Mid は、Mid Shift で選択した周波数を中心に±12dB のカット / ブーストを行います。

BLEND

ダイレクトの楽器信号と SansAmp 回路の信号の割合をブレンドします。多くの場合は最大 (100% SansAmp) に設定することになるでしょうが、用途によってはダイレクト信号との比率を調整することで好みのサウンドを作ることができます。Blendを最小にすると SansAmp のチューブアンプ・エミュレーション回路はバイパスされますが、Bass、Mid Shift、Mid、Treble、Level は引き続き有効です。

LEVEL 1

Driveセクションの出力レベルを調整します。

TIGHT ボタン

クリーン寄りの設定では音の輪郭を明瞭にし、歪みサウンドではよりスナッピーなレスポンスにします。

DEEP セクション

Deepセクションは、LevelとSaturationを個別に備えた独立・並列型のプリアンプです。シンプルかつ効率的な構成とするため、EQカーブはGeddy本人の仕様に合わせてプリセットされています。

SATURATION

チューブアンプの出力段を強くドライブしたときのように、全体のゲイン量とオーバードライブ量を調整します。

LEVEL 2

Deepセクションの出力レベルを調整します。

エフェクトの接続順

最良の結果を得るには、楽器を SansAmp DI-2112 へ直接接続してください。これにより、本機のインタラクティブな特性を活かすことができます。ペダルボードへ組み込む場合は、最適な順番を見つけるために実際に試すことを推奨します。一般的な目安は次のとおりです。

SansAmp DI-2112 の前に推奨

Compressor、Envelope Filter / Follower、Fuzz Box、Pre-Amp、Wah-Wah

SansAmp DI-2112 の後に推奨

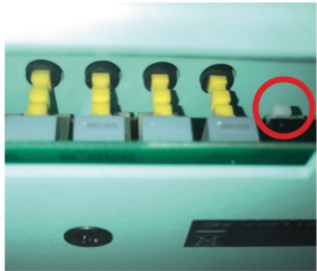
Chorus、Delay、EQ、Pitch Shifter、Reverb

使用上のポイント (NOTEWORTHY NOTES)

1) チャンネルの合成

ABYボックスなどを使って出力をパッシブに合成する方法は、一般的に信号を劣化させるため推奨しません。

本体内部には2チャンネルをあらかじめミックスするためのスイッチが用意されています。電池カバーを二つとも取り外し、本体左側のボタン列の最も右にあるスイッチ（下図参照）を押し込むとミックスモードに切り替わります。



電池カバーを2つとも取り外し、本体左側のボタン列の最も右にあるスイッチ（図参照）を押し込むとミックスモードに切り替わります。

※内部MIXモードスイッチが機能するのは前述
DRIVE/DEEP 1/4" OUTS の項目にある4.接続時のみとなります。

2) 電源について

DI-2112は18Vで最も良好に動作し、ヘッドルームと明瞭度が向上します。必要な場合は9V電源でも安全に使用できますが、ヘッドルームは小さくなります。電池で使用する場合は9Vアルカリ電池を2本使用する必要がある、1本だけでは動作しません。

3) ファンタム電源には非対応

SansAmp DI-2112 はファンタム電源では動作しません。ミキサーから供給されるファンタム電源は電流が非常に小さく、簡単なマイクを駆動する目的で設計されています。SansAmp DI-2112は回路規模が大きいので、そのような低電力の電源では正常に動作できません。

4) インタラクティブな特性

SansAmp DI-2112は、入力信号レベルや演奏者のタッチによって反応が変化します。たとえば、高いレベルの信号を強く弾くとゲイン構成が増え、オーバードライブが強くなります。反対に、低いレベルの信号を軽く弾くとゲインが下がり、よりクリーンなサウンドになります。

5) 高いレスポンス性

SansAmp DI-2112 のコントロールは非常に感度が高く、強力に作用します。最大の効果を得るためにすべてを最大にする必要はありません。たとえば音を明るくしたい場合、High を最大まで上げるのではなく、まず Low を下げる方法も試してください。

トーン・コントロールは、楽器用アンプが持つEQカーブの補正にも役立ちます。アンプとの最適な組み合わせを探すときは、まずトーン・コントロールを12時位置にし、必要に応じてカット / ブーストします。アンプごとの差は大きく、目的のサウンドを得るために SansAmp DI-2112 側で極端な EQ 設定が必要になる場合もあります。目的のサウンドが得られているなら、それは使用しているアンプとの適切なバランスを見つけたということです。

6) ノイズについて

SansAmp DI-2112 自体のノイズレベルは非常に低く設計されています。ただし、入力元から発生しているノイズを増幅する場合があります。入力ノイズを抑えるため、アクティブ回路を搭載した楽器はボリュームを最大、トーンをフラットに設定することを推奨します。ブーストが必要な場合は、ゆっくり、必要最小限に調整してください。

- 楽器を動かしたり、ボリュームを0にしたりして、ピックアップへの干渉も確認してください。シングルコイル・ピックアップはノイズが発生しやすい傾向があります。
- チューブアンプやその他の電子機器と同様、高ゲイン設定では照明やトランスなど外部からの干渉を受けることがあります。
- 各コントロールの相互作用を意識してください。非常に感度が高いため、まず標準的な位置から始め、その後は自由に追い込んでください。

7) LED インジケーター

バッテリー残量が少なくなると、LEDが目に見えて暗くなります。

電源仕様 (POWER REQUIREMENTS)

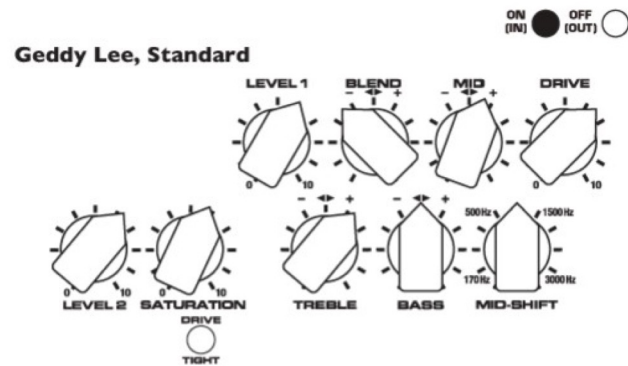
- 9Vアルカリ電池を2本使用します（電池は付属しません）。Inputジャックへのプラグ挿入でバッテリーがONになります。電池消耗を防ぐため、使用しないときはプラグを抜いてください。
 - 消費電流：約55mA。
 - DC電源のみを使用してください。誤った電源を使用すると、本機が損傷し、保証が無効になる場合があります。
 - DC電源仕様：18V DC（安定化 / 非安定化いずれも可）、100mA以上。
 - 2.1mm、センターマイナス (-) 。
- ※本機はDC9Vでも使用できますが、最適な性能を得るため、DC18Vでの使用を推奨します。なお、DCアダプターは付属しておりませんので、お客様にてご用意ください。

サンプルセッティング

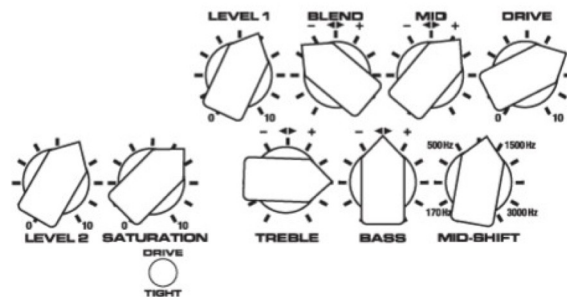
Geddy Lee

- Geddy Lee, Standard (標準セッティング)
- Geddy Lee, “Roundabout” -style (「Roundabout」スタイル)

SansAmp DI-2112 Sample Settings



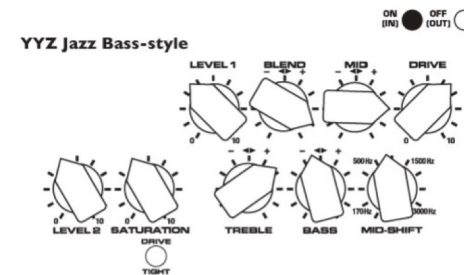
Geddy Lee, “Roundabout”-style



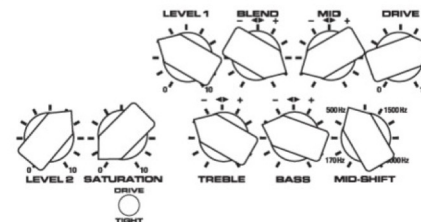
サンプルセッティング- 2

- YYY Jazz Bass-style (YYY ジャズベース・スタイル)
- Les Claypool-style (Les Claypoolスタイル)
- Jack Bruce / Cream-style (Jack Bruce / Creamスタイル)
- John Paul Jones / “Heartbreaker”-style (John Paul Jones / 「Heartbreaker」スタイル)

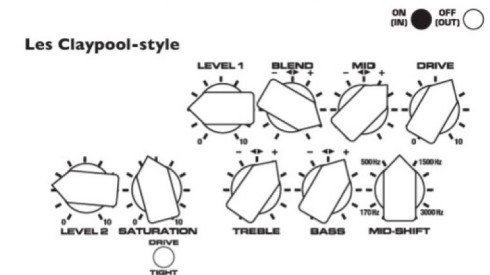
SansAmp DI-2112 Sample Settings



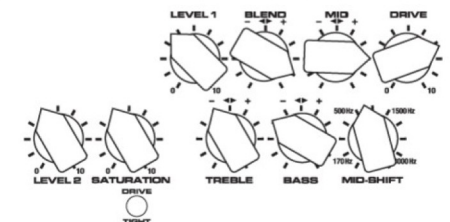
Jack Bruce / Cream-style



SansAmp DI-2112 Sample Settings



John Paul Jones / “Heartbreaker”-style



サンプルセッティング- 3 / カスタム設定

- John Entwistle / “Leeds”-style (John Entwistle / 「Leeds」スタイル)
- Radiohead / “National Anthem”-style (Radiohead / 「National Anthem」スタイル)

